

第 8 回町田市長期計画審議会議事概要

1 **開催日時** 令和 2 年 11 月 6 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

2 **開催場所** オンライン会議

3 **出席者**

<委員>

（学識）大久保英敏会長、三輪律江職務代理、芳賀博委員、小林保子委員

（市民団体）深澤勝委員、安達廣美委員、小野敏明委員、大野太郎委員、清原理委員、
櫻本千恵子委員、上坂孝博委員、野澤哲也委員

<事務局>

小池政策経営部長、浦田企画政策課長、水越経営改革室長、押切経営改革室課長、
樋口企画政策課未来づくり担当課長、山田企画政策課担当課長、

（企画政策課）山岸、新井、中村（経営改革室）近藤、堀、猪熊

4 **傍聴者**

0 名

5 **次第**

1 開会

2 報告事項

（1）第 7 回審議会の振り返り

3 議事

（1）横断的なテーマ等について

（2）（仮称）経営基本方針について

（3）（仮称）まちづくり基本目標について

4 その他

2 報告事項

(1) 第7回審議会の振り返り

- 議事録を踏まえ、前回審議会の振り返りを行った。

3 議事

(1) 横断的なテーマ等について

○会長

- ・SDG s は持続可能な開発目標なため、持続可能なまちづくりを3つの横断テーマに加えてもいいと思うが、内容が広すぎるか。

○事務局

- ・この3つのテーマは国が推進する計画に適合するように位置付けている。実行計画では細かく出していきたい。

○清原委員

- ・「町田市がこれまでに進めてきたまちづくりの取り組みは、SDG s の理念や目標と一致しており、～」とあるが、SDG s は多岐にわたり、また細かい目標を設定しているため、一致しているという表現は工夫したほうがよいのではないか。

○事務局

- ・目指す方向性が一致しているという意味であるが、表現について改めて検討する。

○芳賀委員

- ・SDG s を計画の基本目標と紐づけているが、経営基本方針では触れなくてよいのか。

○事務局

- ・SDG s 17のパートナーシップは一致するところがあるが、人材育成や組織開発を位置付けるのは難しいため、経営方針は直接SDG s に紐づけないことで整理している。

○芳賀委員

- ・特に関連するものだけでも入れてはいいのではないかと思う。

○会長

- ・持続可能な発展は経済成長、エネルギーの安定供給、環境保全の3つが言われている。SDG s はそれを含む経営戦略ともとれる。それを市民に分かりやすくどう位置付けるかが重要である。

(2) (仮称) 経営基本方針について

○会長

- ・基本方針1だけ改革項目が4つあり、他とのバランスが良くない。改革項目1-3と1-4を1つにまとめてはどうか。

○事務局

- ・まとめることも検討する。

○三輪委員

- ・改革項目3-2の指標などは今後意識調査などで把握するのか。また、指標は統計で取れるものとアンケートで取るものがあるが、両方ある方が良いのではないか。

○事務局

- ・指標案としては、更新する施設の延床面積や進捗率なども検討したが、市民目線を重視しこの指標案としている。

○三輪委員

- ・アンケートで取る指標の場合、その数字がなぜ上がったのか下がったのかその背景も把握していくことが必要である。

○会長

- ・公共施設を利用して財源の確保をするということも考えられるのか。

○事務局

- ・そうしたことも考えられる。

(3) (仮称) まちづくり基本目標について

【政策9】

○三輪委員

- ・災害発生時の自助や共助の話はどこに入るのか。

○事務局

- ・施策9-1に含まれる。

○三輪委員

- ・自助、共助は災害以外のものもあるが、そうしたものがどこに入るのか。

○事務局

- ・政策6「つながりを力にするまちになる」に整理している。

○会長

- ・デジタル化、スマート化に関することも政策9に入ると、市民にも伝わりやすくなるのではないか。

○事務局

- ・デジタル化については経営基本方針の中で整理している。

○三輪委員

- ・「自助・共助の強化」は誰が強化するのか。強化という表現は役所から住民に働きかける印象がある。

○事務局

- ・所管課と調整する

【政策8】

○三輪委員

- ・指標について、市民の意識を聞くような指標があってもいいのではないか。また、「公園などみどり空間で活動する人の数」をどう測るのか。
- ・公園などのオープンスペースの活用が新型コロナウイルスの流行の影響もあり国でも検討されている。利用が進む一方で管理、マネジメントが重要になり、そうした人材の育成が必要になる。利用する側の指標だけでなく、そうした指標も必要ではないか。
- ・「住み替えした世帯数」について、市内転居だけだと大きすぎるのではないか。住み替えをした数よりも、適材適所に住んでいるかどうかの方がより重要である。数値の把握の際には留意していただきたい。

○会長

- ・満足度のようなものも指標になると思うが、アンケートの実施は想定しているのか。

○事務局

- ・アンケートの実施は考えている。

【政策7】

- ・意見なし

【政策6】

○三輪委員

- ・施策9の際に話になった自助、共助の部分を加えていただきたい。

○事務局

- ・地域福祉の個別計画を策定しており、その内容と連携していく。

○三輪委員

- ・政策6はすべての分野が含まれる広いものだが、地域活動と団体活動だけがこの活動のように見える。政策の指標も活動した人だけで測っている。活動できない人の「心意気」の部分の測る指標があっても良いのでは。

○事務局

- ・所管課と調整する。

【政策5】

○三輪委員

- ・在宅維持率とは何か。

○事務局

- ・住み慣れた地域で住み続けられる人の割合のことである。

○会長

- ・専門用語には用語説明が入るという認識でよいか。
- 事務局
 - ・認識の通り。
- 小林委員
 - ・介護職員の離職率について、離職しても同業種に再就職することもあり、増加率の方が良いのではないか。
- 会長
 - ・割合でなく職員数の増加でも良いかもしれない。
- 三輪委員
 - ・高齢者を地域で支えるためには、専門職だけでなく、地域のコーディネーターも重要だと思う。こうした方の位置づけも考えていただきたい。
- 会長
 - ・概要の中では介護人材としており、職種別に人員数が把握できるのであればその方が良い。
- 事務局
 - ・確認する。

【政策4】

- 芳賀委員
 - ・指標の②と⑥が重複しているように感じる。
- 事務局
 - ・ご指摘の通りであり、⑥の指標について実数的な指標に置き換えられないか検討する。
- 三輪委員
 - ・スポーツ実施率とはどのようなものか、また「する」「みる」「支える」とは具体的にどのようなものか。
- 事務局
 - ・いずれも担当課に確認する。
- 清原委員
 - ・スポーツや芸術に関わる人が増えることは市にとってはどのような効果が期待できるのか。
- 事務局
 - ・スポーツや芸術の振興によって地域の活性化につながるものと考えている。
- 三輪委員
 - ・スポーツや文化・芸術はレベルが高い印象がある。単に散歩するだけとか、自分で何かをつくったりするものなどは入らないのか。

○事務局

- ・あまり高尚なものを目指しているわけではないが、個人の楽しみというよりはもう少し上のものが含まれると考える。

○会長

- ・市民農園などもここに入るのか。「いくつになっても自分の楽しみが見つかるまち」なので、スポーツに限定する必要はない

○清原委員

- ・プロスポーツや高度な文化芸術のものと、市民活動的なものは分ける必要がある。高度なスポーツや文化芸術に刺激を受けて、市民活動的なものも活発になると思う。

【政策3】

○三輪

- ・農業や里山は経済観光部なのか。環境や都市計画の所管ではないのか。コロナを受けて里山に人が入りこんで問題になっているケースもあり、理解していただく必要があり、都市づくり系の担当が入っているとよい。

○事務局

- ・都市計画関係も関わると思う。確認する。

○会長

- ・組織間の連携を図る意味では、関連する部署を複数記載してもよいかもしれない。

○野澤委員

- ・公共施設内ではインターネットが繋がらないなど、会議で利用する際に不便であり、公共施設のICTの強化も入れていただきたい。
- ・市が持っている情報を民間が活用できることが一つの価値創造につながる。市としての政策への反映ができるといいのではないか。

○事務局

- ・オープンデータの推進は市民とコラボレーションしていく上では必要になり、経営基本方針1-1に入れている。公共施設の再編については3-2に入れている。公共施設のビジネス利用も検討の余地があると思う。

【政策2】

○三輪委員

- ・指標の学ぶ意欲は勉強と運動能力だけではないので、誤解を生まないような指標設定ができるとうい。例えば、自己肯定感や幸せの実感などを意識調査を活用して設定しても良いのではないか。

○事務局

- ・教育プランとの整合をとる必要もあるので、教育プランも確認して適切な指標を検討

したい。

○会長

・全国学力調査について町田市は何位なのか。

○事務局

・一部教科については公表されているので確認いただくことは可能である。

【政策1】

○大野委員

・合計特殊出生率と希望出生率のギャップを埋めることが重要であると思う。そういった指標も入れてはどうか。

○事務局

・検討する。

○三輪委員

・「子育てしやすいまちだと感じる」のような指標を追加してはどうか。

○事務局

・検討する。

4 その他

○事務局

・キャッチコピーの投票を実施している。だれでも投票可能であり、ご協力をお願いしたい。

○三輪委員

・どのように周知しているのか。

○事務局

・全小中学校にチラシを配布したり、ゼルビアのスタジアムなどイベントに出向いて呼び掛けたりしている。

○深澤委員

・SNSも利用したほうが良いのではないか。

○事務局

・公式ツイッターがあるが、利用者が少ない状況である。今後、利用は検討する。

○大野委員

・学内でも周知しようと思うが、問題ないか。

○事務局

・よろしくお願ひしたい。

○安達委員

・自助、共助について議論になったが、コロナ禍の中で防災課の方とも検討をしている

ので、修正するのであればそうした内容も踏まえていただきたい。

○大野委員

- ・横断テーマのタイトルに高齢化への対応に関するキーワードも入れてはどうか。

○事務局

- ・検討する。

○芳賀

- ・政策6について、困ったときに相談できる人の数などを客観的に測る指標として、ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートなども指標として検討してはどうか。

○事務局

- ・検討する。

○事務局

- ・今後の流れとして11月27日に中間報告を審議会から市に提出していただき、12月15日からパブリックコメントを実施する予定である。

以上